

第 2 期

大津市がん対策推進基本計画

(案)

【概要版】

令和 7 年 ● 月

大 津 市

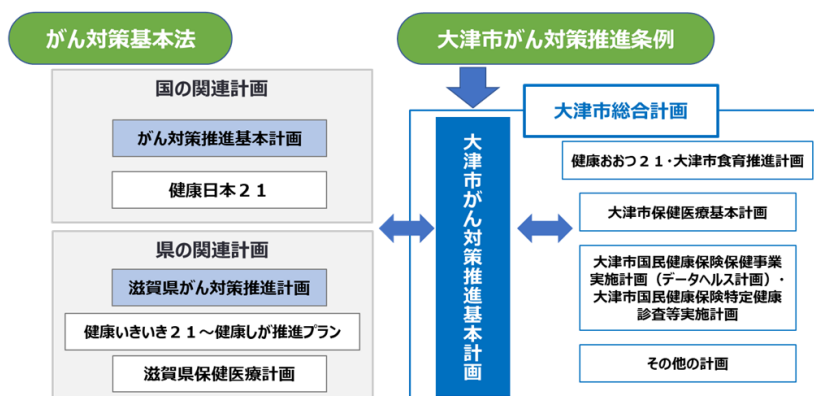
1. 計画策定の背景と趣旨

我が国では、悪性新生物（以下「がん」という。）が昭和56年から死因の第1位となっており、令和4年には年間38.6万人の国民ががんにより命を落としている現状があります。本市においても、現在、がんは死因の第1位であり、がんの予防、がんとの共生などの総合的ながん対策は、今後ますます重要となってきます。

本市では、国や県のがん対策推進に向けた動きを踏まえ、より一層がん対策に取り組んでいくため、平成28年4月に「大津市がん対策推進条例」を施行し、平成29年6月には「大津市がん対策推進基本計画」（以下、「第1期計画」という）を策定し、取組を推進してきたところです。第1期計画が令和6年度に計画期間の最終年度を迎えるに当たり、これまでの取組の効果検証と評価、市民・事業所意識調査やがん対策にかかる関係団体へのヒアリングの結果等を踏まえ、今後の本市のがん対策について個別具体的な施策・取組を示すために、「第2期大津市がん対策推進基本計画」を策定しました。

2. 計画の位置づけ

本計画は、「大津市がん対策推進条例」に基づき策定します。また、大津市総合計画を上位計画とし、本市のがん対策に関する施策を総合的に体系付けた中期的な指針として位置付けています。さらに、策定に際しては、国の「がん対策推進基本計画」、「滋賀県がん対策推進計画」等との整合性を図るものとします。



3. 計画の期間

本計画の計画期間は、令和7年度から令和12年度までの6か年とし、令和10年度に中間評価を行います。目標の達成状況や社会情勢の変化等に応じ適宜見直しを行うことで、効果的な施策を展開します。

4. SDGs との関係

「誰一人取り残さない」社会をつくるために、本市は、持続可能なおおつを実現するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指していきます。本計画においては、国際社会が取組むべき17の目標の内、以下の6つの目標に関する取組を推進します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

5. 第2期計画の基本的な考え方

5-1 計画の基本理念と基本目標

誰もが自分を大切にし がんになっても
安心して暮らせるまち おおつ

～がんをよく知り、がんを予防し、
がんになっても安心して働き暮らせる地域社会の実現を目指して～

基本目標 1 がんの予防

市民一人ひとりが、正しくがんを知ること、がんを予防するとともに、
検診による早期発見・早期治療を目指します。

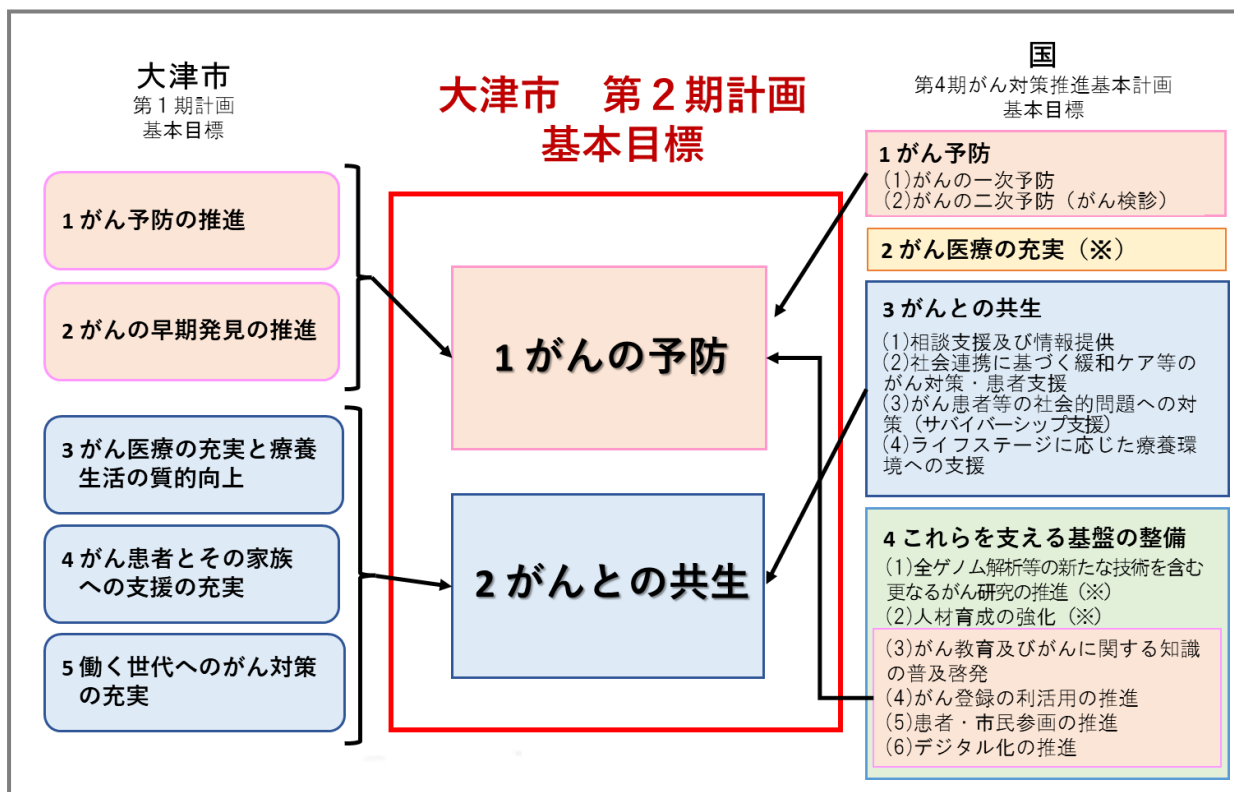
基本目標 2 がんとの共生

がんになっても、患者やその家族が安心して暮らしていけるまちを目指し
ます。

5-2 計画の体系整理

第2期計画は、国の「第4期がん対策推進基本計画」（令和5年3月策定）との整合性を図っています。
国の計画のうち、「がん医療の充実」にかかる分野や、「基盤の整備」分野の「がん研究」「人材育成」の
項目については、国や都道府県が担うべき分野として位置づけます。

第1期計画、国の第4期計画との対比



5-3 計画の体系

【基本理念】

誰もが自分を大切にしがんになっても安心して暮らせるまち
おおつ

【基本目標】

基本目標 1 がんの予防

市民一人ひとりが、正しくがんを知ることで、がんを予防するとともに、検診による早期発見・早期治療を目指します。

そのために、学校や事業所を含めた様々な機会を通じ、がんに対する正しい知識と、誰もが自分の心身を大切にする重要性などを啓発します。

【分野別目標】

1-1 がんの予防の推進

1-2 がんの早期発見の推進

1-3 がん教育、啓発の充実

基本目標 2 がんとの共生

がんになっても、患者やその家族が安心して暮らしていけるまちを目指します。

そのために、がん患者の在宅等による療養の質の向上を図るとともに、アピアランスケアをはじめとするがん患者等の就労や生活の支援の充実を図ります。

2-1 在宅医療の充実と療養生活の質的向上

2-2 がん患者等の支援の充実

【分野別施策】

【主な取組】

1-1
①がん予防に関する科学的知識の普及

1-1
②生活習慣の改善によるがん予防の取組の推進

1-1
③受動喫煙の防止

1-2
①がん検診の受診促進

1-2
②がん検診の質の向上

1-3
①学校教育におけるがん教育の充実

1-3
②市民に対する研修機会等の充実

1-3
③事業所との連携による知識の普及

2-1
①在宅医療の推進

2-1
②緩和ケアの理解促進と充実

2-2
①がん治療に関する相談体制整備と情報提供の充実

2-2
②市内事業所等と連携した両立支援の相談対応

2-2
③アピアランスケアの情報提供と利用支援

1 地域保健活動における予防啓発の実施

2 メディア、SNSを活用した情報発信

3 ワクチン接種（HPV、B型肝炎）の推進

4 「がんを防ぐための新12か条」の推進

5 運動に取り組みやすい環境の整備

6 食育の推進

7 イエローグリーンリボン運動、世界禁煙デー及び禁煙週間の普及啓発

8 喫煙可能室設置施設の配慮義務に関する事業所への周知

9 検診対象者への個別受診勧奨の強化

10 事業所における従業員に対するがん検診受診の促進

11 セット検診、休日検診等による受診しやすい検診体制の整備

12 精密検査未受診者への個別勧奨の推進

13 検診機関を対象とした従事者研修による精度管理

14 「市区町村におけるがん検診チェックリスト」に基づく精度管理

15 がん教育スピーカーバンク事務局等、外部講師派遣機関との連携強化

16 研修会や講習会などを通じた、保護者や教職員、AYA世代へのがんに関する知識の普及

17 「がんについて考える日」に関連したイベントの実施

18 TAC (Think About Cancer) キャンペーンの実施

19 すこやか相談所による市民啓発の実施

20 従業員や事業者に向けた、がんに関する相談窓口の周知

21 TAC (Think About Cancer) キャンペーンへの事業所の参加促進

22 中小企業におけるがん予防に関する普及啓発

23 訪問診療の体制強化

24 訪問看護の体制強化

25 多職種連携による在宅療養支援活動の推進

26 緩和ケアの意義や必要性の周知啓発

27 緩和ケアを受けられる医療機関や相談窓口等の情報発信

28 がん相談支援センター等、がん医療に関する相談窓口の周知強化

29 がん患者団体等におけるピアサポーターの養成や活動の支援

30 がん患者やその家族に向けた、治療や療養に関する情報提供の充実

31 従業員や事業者に向けた、治療と仕事の両立支援等に関する情報提供の充実

32 中小企業における健康経営に関する普及啓発

33 医療機関や販売店と連携した、アピアランスケアに関する情報提供

34 アピアランスケア支援事業の実施

6. 施策の方向性と評価指標

基本目標Ⅰ がんの予防

目指すべき姿 (分野アウトカム)	がんにかかる人が減り、がんにかかっても早期に発見できている		
評価指標	現状(令和6年度)	目標(令和12年度)	出典
がんが発見された人のうち 早期がんの診断割合	胃がん:60.4% 大腸がん:61.1% 肺がん:37.4% 乳がん(女性):66.3% 子宮頸がん:81.7% (H28~R2)	増加	全国 がん登録
がん年齢調整罹患率 (人口10万人当たり)	男性:919.8 女性:592.9 (R2)	減少	全国 がん登録

1-1 がんの予防の推進

目指すべき姿(中間アウトカム)

がんを正しく理解する市民や事業所等が増え、生活習慣や職場環境の改善が進んでいる

評価指標	現状(令和6年度)	目標(令和12年度)	出典
がんになる要因(9項目)について 知っている人が50%以上の項目数	2項目 (R5)	9項目 (R11)	市民意識調査
受動喫煙の機会を有する者の割合 (家庭、職場、飲食店)	家庭:2.8% 職場:10.5% 飲食店:8.6% (R4)	家庭:1.4% 職場:5.2% 飲食店:7.0% (R10)	「滋賀の健康・ 栄養マップ」調査

【分野別施策】

- がん予防に関する科学的知識の普及
- 生活習慣の改善によるがん予防の取組の推進
- 受動喫煙の防止

【目指す成果(初期アウトカム)】

- ◎ がんについて正しく理解する市民が増えている
- ◎ 感染由来のがんを知る市民が増えている
- ◎ 生活習慣の改善が進んでいる
- ◎ 受動喫煙の機会が減っている

1-2 がんの早期発見の推進

目指すべき姿(中間アウトカム)

市民ががん検診の重要性を理解し、また、がん検診を受けることができる事業所が増えている

評価指標	現状(令和6年度)	目標(令和12年度)	出典
がん検診の 継続受診の割合	胃がん検診:34.7% 肺がん検診:47.2% 大腸がん検診:39.8% 子宮頸がん検診:37.7% 乳がん検診:37.9% (R5)	各がん検診 50% (R11)	市民意識調査
全くがん検診を実施していない 事業所の割合	30.9% (R5)	0% (R11)	事業所意識調査

【分野別施策】

- がん検診の受診促進
- がん検診の質の向上

【目指す成果(初期アウトカム)】

- ◎ 市民のがん検診受診率が向上している
- ◎ 精密検査を必要とする市民が速やかに医療機関を受診できている
- ◎ 市のがん検診の精度が向上している

1-3 がん教育、啓発の充実

目指すべき姿（中間アウトカム）

学校教育の中で児童・生徒ががんを正しく理解し、また、地域や職場でもがんについて考える機会が増えている

評価指標	現状 (令和6年度)	目標 (令和12年度)	出典
がんについて考える機会が充実していると感じている人の割合	67.1% (R6)	80% (R11)	健康増進関連イベントにおけるアンケート調査

【分野別施策】

- 学校教育におけるがん教育の充実
- 市民に対する研修機会等の充実
- 事業所との連携による知識の普及

【目指す成果（初期アウトカム）】

- ◎ がん教育を通じて、児童生徒のがんに関する知識の理解が深まっている
- ◎ 20～30歳代の人に、がんに関する知識が普及している
- ◎ がん予防に関連した地域保健活動が充実している
- ◎ 健康教育や啓発イベントを通じて、市民のがんに関する意識が高まっている
- ◎ 従業員のがん予防やがん検診受診促進に取り組む事業所が増加する
- ◎ 事業所のがん対策に関する意識が向上している

基本目標2 がんとの共生

目指すべき姿 (分野アウトカム)	がん患者及びその家族等の療養生活の質が向上している		
評価指標	現状 (令和6年度)	目標 (令和12年度)	出典
がんになっても、希望する療養生活が実現できると感じている人の割合	13.3% (R5)	増加 (R11)	市民意識調査
がんの治療や検査を受けながら働き続けられる環境であると感じている人の割合	75.6% (R5)	増加 (R11)	市民意識調査

2-1 在宅医療の充実と療養生活の質的向上

目指すべき姿（中間アウトカム）

がん患者が在宅医療を利用しやすく、診断直後から必要な人が緩和ケアを受けられるようになっている

評価指標	現状 (令和6年度)	目標 (令和12年度)	出典
訪問診療を受けた患者数	4,215人 (R5)	増加 (R11)	滋賀県国民健康保険団体連合会 訪問診療の状況
緩和ケアを受け、気持ちが前向きになったがん患者等の割合	63.1% (R5)	80% (R11)	滋賀県がん患者団体連絡協議会 がん患者等の状況

【分野別施策】

- 在宅医療の推進
- 緩和ケアの理解促進と充実

【目指す成果（初期アウトカム）】

- ◎ 訪問診療や訪問看護の医療資源が充実している
- ◎ 緩和ケアを必要とする市民が情報を収集することができている

2-2 がん患者等の支援の充実

目指すべき姿（中間アウトカム）

がん患者が相談しやすい窓口が地域にあり、また、がんの治療と仕事を両立できる事業所が増えている

評価指標	現状 (令和6年度)	目標 (令和12年度)	出典
がんについて相談したい相手として「医療機関等の相談窓口」を選ぶ人の割合	31.5% (R5)	50% (R11)	事業所意識調査
がんに関心した従業員が就労継続できる事業所の割合	76.9% (R5)	85% (R11)	事業所意識調査

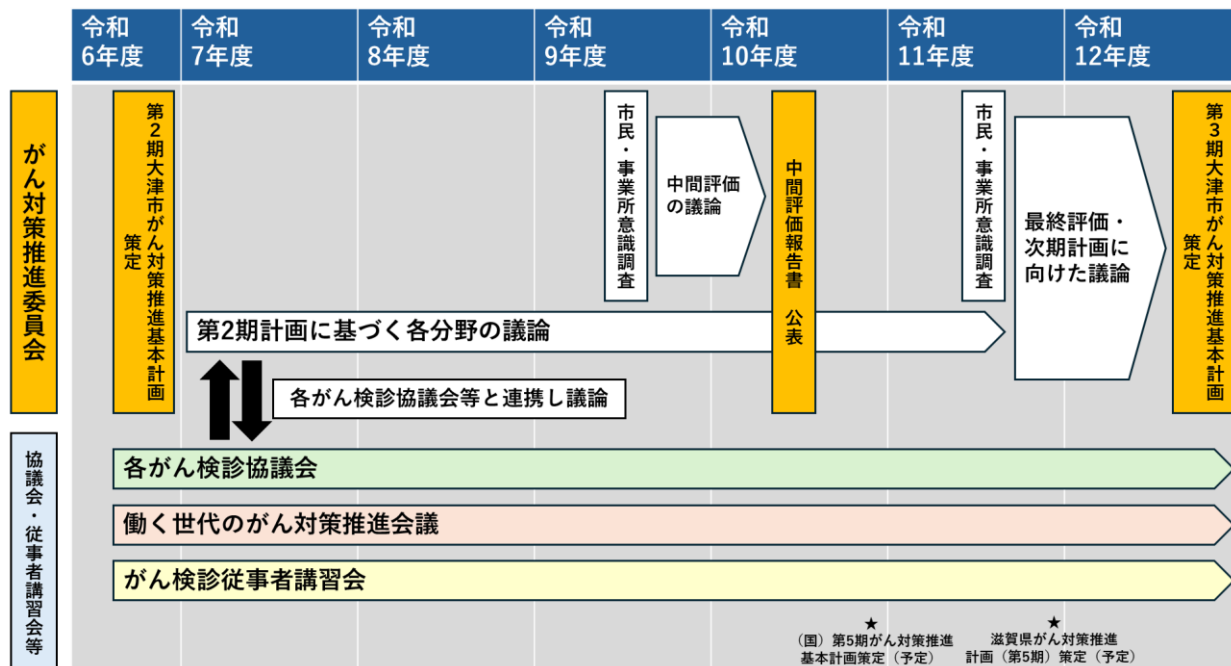
【分野別施策】

- がん治療に関する相談体制整備と情報提供の充実
- 市内事業所等と連携した両立支援の相談対応
- アピランスケアの情報提供と利用支援

【目指す成果（初期アウトカム）】

- ◎ 市民が、がん医療に関する相談窓口を知っている
- ◎ がん患者やその家族が、がん患者サロンを利用しやすくなっている
- ◎ 治療と仕事の両立支援に取り組む事業所が増えている
- ◎ アピランスケアを必要とする人が支援制度を利用できている

7. 計画の進捗管理



2月4日は
「大津市がんについて考える日」です。

第2期大津市がん対策推進基本計画

【概要版】

令和7年3月発行

編集：大津市保健所健康推進課

〒520-0047 大津市浜大津四丁目1番1号 明日都浜大津

TEL:077-528-2748 FAX:077-523-1110